

い

ささか旧聞に属するかもしれませんが、ビデオテープの『二〇二五年問題』なる話題がテレビや新聞の記事として賑わったことがあります。

何のことかと思えば、世間をデジタルが席卷する以前の映像記録媒体であったビデオテープが、録画再生デッキの製造終了及び修理部品の供給停止やテープ自身の劣化によって遅かれ早かれ見られなくなりまよ、という話のようです。その状況が今年辺りから急速に深刻化していくと言われているのです。

調べてみると、ある国際機関が出した『マグネティック・テープ・アラート』という警告がことの発端で、長年に渡って博物館や教育機関等で広く使用されてきた磁気記録テープには貴重な映像が多く残っているから、デッキやテープが使用可能な今のうちにデジタルデータ化するよう推進しているのだそうです。

実際、家庭レベルで考えてみても還暦以降の年代の方々が若い頃の動画撮影はVHSテープ等を使用するビデオカメラが主流だったので、家族を撮った懐かしい動画や結婚式の恥ずかしい映像が残っていたら早めに対応する必要があるかと思えます。でも、どうやってテープをデータ化するの？って話ですよ。

私が思いつく限りビデオテープの中身をデジタル

データ化する方法は三つあります(1)ビデオデッキとDVD(ブルーレイ)レコーダーをAVケーブルで繋いでディスクにダビングする(2)ビデオデッキとパソコンをデジタル変換ケーブルで接続して動画ファイルとして保存する(3)専門業者に出す。

最初は(1)の方法を考えたのですが、少々手間なうえにDVDやブルーレイもそのうち今回の二〇二五年問題と同じ状況になってしまう恐れがあるので

(2)のビデオ映像をデータ化してパソコンに取り込むことにしました。方法としては、ネットショップでビデオキャプチャーケーブルなるコードを購入してビデオデッキとパソコンを繋いで、録画ソフトをネットからダウンロードして使います。今使っているケーブルは二千元ほどの安価品ですが何の問題もありません。

ただし、どっちにしても現役稼働中のビデオデッキが無ければどうしようありません。今使っているデッキは二十年以上昔のポンコツで、一度動かなくなったことがあり分解してみたら駆動ベルトが切れていたの太目の輪ゴムで応急処置がしてある代物です。私が耄碌するまでは元気でいて欲しいと願っています。

2025.5.19

1491号(夕焼け通信 創刊1993.4.23)

〒690-0871 島根県松江市東奥谷町386-7 gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/ 編集 宮森健次

老い老いに 木幡智恵美

34



九九九年度の夕焼け通信には、Y氏の「当たらずとも遠からず」の連載が長く続き、K・AさんやT・Hさんの詩も度々掲載された。K・Aさんは「世紀末」というタイトルで、ノストラダムスの予言を取り上げた詩も寄せてくださった。前年の十一月に松江市プラバホールで行われた平沢保治氏の『人生に絶望はないーハンセン病一〇〇年のたたかい』と題した講演会の講演録が連載され、この年の十一月に行われた難民緊急支援横田集会『東ティモールに自由を！スピーキングツアー99』と題したミカ・バレット氏の講演録があとに続く。前年から投稿のあった関釜裁判官「従軍慰安婦たちの戦い」の経緯がT・Tさんから寄せられ、「看護・今、むかし」のM・Nさんも、度々原稿を送ってくださいました。講演会、上映会、学習会、作陶展、公開講座、写真展、集会等の案内は、前年以上の多く紙面を飾った。それは、Y氏や編集長が関わる人の輪が広がり、動きがさらに活発になったことの表れだ。

この年、新たに投稿くださった方々がいる。大阪のUさん。「オンリー・ワン」というタイトルで、過去から現在に至る様々な出来事を「大阪のおんな」の目で捉え、二十五回にわたって綴ってくださいました。益田出身で、岩手に移り住むようになったY・Yさんからは、「タイムグラベリ」が届く。アイヌ語で小さな流れの多いところという意味を持つタイムグラという地での暮らしぶりが綴られている。「出雲弁時評」は、出雲のK・Mさんから。方言の話題を面白おかしく書いて下さった。

そして、「漫画道楽記」が連載される。これまで夕焼け通信のためにカットを寄せていただいていたM・Iさん。文章も寄せていただくことになった。たくさん書き手が夕焼け通信に様々な形態で投稿して下さったが、現在まで送り続けて下さっている希少な方だ。四半世紀以上夕焼け通信と関わってきたいわば同志である。今でも、M・Iさんの文章が掲載されると真っ先に文字を追ってしまふ。時にくすつと笑わせてくれる、読んでいると肩の力がすつとぬけていく魅力的な文章なのだ。

ところで、この年の九月十三日は三百号の記念号で、寄稿を募っている記事は目にするのだが、不思議なことに、私の綴りに三百号は存在しないのだ。はて？

30代フリーター AIの進歩によってモノやサービスが自動生産され、人間は働かなくてもそれらを手に入れられるようになる、それまで美德とされていたものは根拠を失う。そのとき、新たな倫理が生まれる可能性がある。

だとしたら、それは何を善とし、何を悪とすることになるのか。先週はそこまで話が終わった。

年金生活者 従来の倫理は「欠如」を前提としたものだが、その「欠如」は経済的な富に限られる。それ以外の「欠如」、すなわち心に生じる「欠如」は依然として残ると考えなければならぬ。未来の倫理はそれを前提としたものになるだろう。

30代 どんな「欠如」なんだ。

年金 ひと言でいえば、生誕にともなう「欠如」だ。生誕とは、それまで一体だった母との別れを意味する。生まれ落ちた子は、片割れを失った存在であると同時に、母にその片割れを失わせた存在でもある。「欠如」を抱えた存在であると同時に、「欠如」を与え

た存在でもある。そのことに子は喪失感を抱き、同時に負い目を感じる。前者は貸しの、後者は借りの感情であり、両者は互いを打ち消し合って収支のバランスを保つ。

それを破るのが、母子の生理が強い授乳と排泄の始末だ。乳児にとってそれは自らのこうむった「欠如」を埋めてもらうこと、貸したものを返してもらうことを意味する。それを元からあった借り母に与えた「欠如」と足し合わせると、たちまち債務超過に陥り、子はそれを返済しないではいられない衝動に駆られる。母に見せる愛らしい笑顔や寝顔はその返済に充てられたものだ。

負い目が人間を贈与へと駆り立てる。そこに他者への配慮という倫理の根源を見ることが出来る。これは経済的な「欠如」がなくなったあととも消えることはない。

30代 若い世代の倫理観の中に未来の倫理の予兆がうかがえないか、ネット上でデータを探しても見つからなかつ

た存在でもある。そのことに子は喪失感を抱き、同時に負い目を感じる。前者は貸しの、後者は借りの感情であり、両者は互いを打ち消し合って収支のバランスを保つ。

それを破るのが、母子の生理が強い授乳と排泄の始末だ。乳児にとってそれは自らのこうむった「欠如」を埋めてもらうこと、貸したものを返してもらうことを意味する。それを元からあった借り母に与えた「欠如」と足し合わせると、たちまち債務超過に陥り、子はそれを返済しないではいられない衝動に駆られる。母に見せる愛らしい笑顔や寝顔はその返済に充てられたものだ。

負い目が人間を贈与へと駆り立てる。そこに他者への配慮という倫理の根源を見ることが出来る。これは経済的な「欠如」がなくなったあととも消えることはない。

30代 若い世代の倫理観の中に未来の倫理の予兆がうかがえないか、ネット上でデータを探しても見つからなかつ

た存在でもある。そのことに子は喪失感を抱き、同時に負い目を感じる。前者は貸しの、後者は借りの感情であり、両者は互いを打ち消し合って収支のバランスを保つ。

たので、AI(チャットGPT)に今の若者がどんな義務を倫理の最上位に置く傾向にあるか尋ねてみた。その答えを要約すると、以下のようになる。

(1) 感情の上での「思いやり」以上に、相手の立場に立って物事を考える「共感」への努力を重視する。

(2) 伝統的な道徳や慣習に縛られることを嫌い、「その人が何を選ぶか」を最大限に尊重しようとする。

(3) 「頑張れば報われる」「自分のことは自分で責任を取る」といった倫理よりも「社会構造や背景への理解」に重点を置く。

(4) 会話や表現では「正論」で相手を傷つけることが最も避けるべき非倫理的行為と考える。

(5) 総じて「関係性の中での倫理」に敏感で、絶対的な規範より「誰かとの関係で、今どうあるべきか」に重点を置く。従来の「こうするのが正しいから」ではなく、「それは誰かを傷つけないか」「その人の背景をちゃんと理解しているか」という問いがモラル

あるのが経済上の「欠如」だ。それにくらべると、若い世代が重視する「共感」にはその種の極端さがなく、代わりに繊細さがある。それは「人間の『存在の倫理』」が前景化した結果ととらえることができる。

人間はこの世に存在する限り、自己にも他者にも影響を与えてしまうので、その責任を免れないというのが吉本による「人間の『存在の倫理』」の定義だ。その最初の「影響」が、生誕によって自己が負った「欠如」と、母という他者に与えた「欠如」にほかならない。

30代 その責任はどうやって果たされることになるんだ。

年金 「欠如」を埋めれば果たすことができるが、それには母胎に帰って行かなければならない。そんなことは現実には不可能なことなので、代替行為によって果たすしかない。相手の立場に立って物事を考える「共感」や、相手の属性や行動の背景に対する「理解」はそれに該当するだろう。

の軸になっている。

年金 「謙虚」「施し」「労り」「忍耐」「貞節」「節制」「勤勉」といった美德が、いつでも、どこでも、どんな状況でも、どんな相手に対しても守られるべきものとして普遍的な規範となっているのに対し、若い世代が重視しているのは個別性だ。普遍的な規範が捨象する細部を掘り下げ、背景まで考慮して相手に向き合おうとする。

この違いを経済にたとえるなら、従来の美德が交換価値を基準にしているのに対し、若い世代の倫理は使用価値を基準にしていると言いうことができる。これは比喻にとどまらない。富の稀少性の縮減が交換価値のウェイトを下げ、使用価値のそれを上げつつあることが、倫理の形成に反映していると思われることができる。

30代 それは相対主義であり、確固とした基盤を持たず、絶えず揺らぐ、頼りない倫理だという批判も成り立つ。

年金 しかし、その基礎に、先週も話した吉本隆明の「人間の『存在の倫

ニュース日記 968
中村 礼治

続・未来の倫理